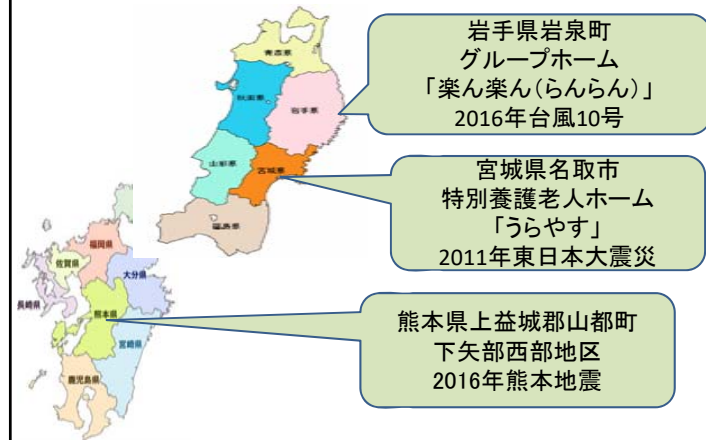


## 高齢者と地域防災

東北福祉大学  
高橋誠一

### 3事例から見る地域防災の取組み



### 2016年台風10号による河川の氾濫



8月30日の小本川氾濫で入所者9人が亡くなった岩手県岩泉町の高齢者グループホーム「楽ん楽ん(らんらん)」。

同日午前9時、町は全域に避難準備情報を出した。しかし同ホームは避難せず、入所者らは濁流にのみ込まれた。

日本経済新聞

### 岩手県認知症高齢者グループホーム協会の取組み

台風10号(被害状況調査)調査のまとめ

- 自分たちの判断で避難したGHはなかった。近隣、消防団、民生委員などの声掛け、指示で避難することを後押しされた。
- 判断に迷った時、映像により危機感が高まり避難行動をとれた。
- 指定避難所ではなく、認知症のお年寄りが少しでも過ごしやすい場所を選んでいた。
- 「待て」「大丈夫」「まだまだ」といった判断は危険。水害とは無縁だと信じきっていたが1mほど浸水したGHがあった。
- 避難勧告等の判断・伝達マニュアル作成ガイドラインに関する検討会(平成28年度)内閣府[http://www.bousai.go.jp/oukyu/hinankankoku/guideline/guideline\\_2016.html](http://www.bousai.go.jp/oukyu/hinankankoku/guideline/guideline_2016.html)

8. 30を忘れない！  
「生命を守る3か条」

1. 無駄と思わずなれ「避難準備情報」  
「避難準備情報」を「避難開始情報」に読み替えて、勇気をもって避難せよ。100%安全な立地条件はあり得ない。逃げる手間は大きいと思われがちだが、それが大切な命を守る事に繋がるといふ強い意識を持つこと。

2. 安全安心に一日過ごせる居場所の確保  
指定避難所が、認知症のお年寄りたちに配慮されている場所とは限りません。より安全安心に過ごせる福祉避難所等の居場所を確保しよう。

3. 一人のかよりお互いさまの心  
一人ですることは限られています。お互いに声を掛け合い、地域の人と共に避難しよう。グループホームだけでなく地域の福祉施設等と一緒に避難する体制を創ろう。

ホーム名： グループホーム いわて

避難場所名	総合福祉施設もりのおか
電話番号	0123-45-6789
住所	〒111-0000 東京都千代田区千代田1-1-1
設備状況	トイレ洋式3つ (男1か所車いす対応) 寝転床10枚 ダイサービス併設
運営先一覧	
市役所	0123-00-0000
病院	0123-00-0000
消防署	0123-00-0000
民生委員	090-0000-0000
所長	090-0000-0000

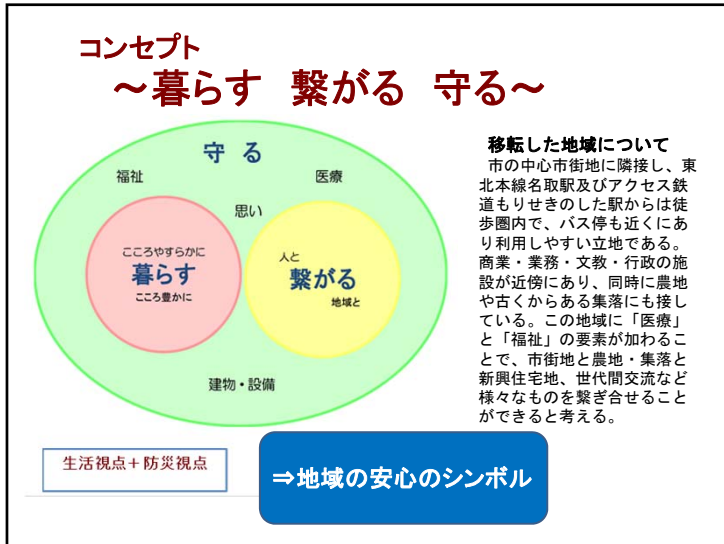
避難準備情報共有  
持ち出し物品の確認  
お年寄りの状態確認  
避難所への連絡・避難への連絡  
避難

物品リスト  
 ぐすく  
 避難用具 (おむつ袋等)  
 食料・水  
 避難用具一式

防災マップ

避難訓練履歴											
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
地震 避難	×	火警 避難	×	水害 避難	×	火災 避難	×	地震 避難	×	火災 避難	×

〒111-0000 東京都千代田区千代田1-1-1 0366.10





買い物が終われば、いどうばた会議？

**下矢部西部地区社会福祉協議会の活動**  
 (熊本県山都町下矢部西部地区／人口586人、世帯数201、高齢化率42.5%)

息子や娘に呼び寄せられて行っても、必ずしも幸せになっていない。  
 住み慣れたこの地で、見知った仲間同士支え合って暮らしたほうが  
 幸せではないか (地区社会福祉協議会長談)

